

国交省、水資源機構 協議記録簿（概要版）

日時	平成 18 年 4 月 13 日 11:00 ~ 12:15
場所	関東地方整備局 河川部河川環境課
出席者（国交省）	徳道課長補佐、西山係長、山川技官
（水機構）	井爪課長、大川補佐、西川補佐、宮下管理課長、高橋主幹
（TONE-DO-NET）	新保、田中
（日本一のアユ）	堂前副会長、野村副会長、福田
（群馬県）	青葉 GL、須長 GL

【注意】本議事録は“日本一のアユを取り戻す会”が単独で作成したのもであり、関係者の承認等を受けていません。聞き違い等もありますので注意願います。

1. 利根大堰に関する回答（パワーポイントによる説明：水資源機構）

（1）昨年(2005)秋の仔アユ対応のゲート運用結果

手動でゲート操作を 1579 回実施した。運用の結果、機械的・土木的支障は特に見られなかった。

（2）今春(2006)の遡上稚アユへのゲート運用

4月中旬（今回の説明後）から5月末の期間についてゲート運用する。

2,3 号魚道を遡上させる目的で 2,3 号魚道の中央ゲートを優先に放流する。

1 号魚道も子供達が観察が出来るように、2 門の土砂吐ゲートから 1 門当たり 4.0m³/s の流量を流す。

ゲート操作は、手動操作とする。なお、次ぎの条件に該当する場合は中止する。

a) 堰下流の河川流量が 30m³/s ~ 190m³/s を外れる場合

b) 堰下流の護床工（堰の安定を確保する施設）に影響が現れた時

c) その他管理に支障がある場合

（3）アユの遡上調査

1 号魚道（網による捕獲 + ビデオ撮影）

2、3 号魚道（目視 + ビデオ撮影）

調査法は基本的に従来と同様であるが、ビデオ撮影を今年から試行する。

調査結果は、利根導水管理事務所の HP で従来と同様に公開する。

（4）その他

施設等による流下仔アユ対策については、検討中である。

2. 江戸川水閘門に関する回答（パワーポイントによる説明：国交省）

（1）水閘門の概要説明（資料配布）

施設の目的は農業用水、上水道用水等の取水と塩分の遡上を防止することである。

昭和 18 年に竣工し 5 門の水門と一門の閘門を有する。ゲートは全て引き上げ式である。

ゲートの呼称は、左岸から 1 号 2 号・・・5 号である。

ゲートの操作は 1, 3, 5 号のセットおよび 2, 3, 4 号のセットで稼働される。

(2) アユの遡上に配慮するゲート操作

アユの遡上能力より $V=2.0\text{m/s}$ の平均流速でゲート下部からアンダーフローで放流する。
平均流量 $Q=9.0\text{m}^3/\text{s}$ 。

従来の操作では、約 3hr かけて河川水を放流していたが、ゲート開度を狭めることにより
(平均流速は 2.0m/s) 5~14.5 時間にわたって放流する。ゲートの下部を通過できれば物理的に遡上できる。

操作は 3 月 22 日から開始した。

(3) 江戸川のアユの遡上情報を国交省の HP に掲載した。(資料配布)

3. 質疑等

アンダーフローでは遡上が困難ではないか。

ゲートの構造が引き上げ式であるので、現状施設の運用ではアンダーフローとなる。

ゲートが全開状態の時もある。全開であれば遡上が可能である。どのような条件の時全開となるのか。

江戸川の野田地点における河川流量が $85\text{m}^3/\text{s}$ 以上で、かつ、河川水位が $YP1.85\text{m}$ 以上の時は、ゲートの操作規則より全開する。

江戸川と利根川との河川流量の分配はどのようになされているか。

自然の状態で河川流量が分配されている。安易な流量変更は利水者等より困難。

稚アユの遡上は江戸川右岸に沿って行なわれる。閘門側である。

国交省のアユ遡上に関する基本的な考えは？

国交省では魚がのぼりやすい川づくりをモデル事業ではなく、全河川で実施している。優先順位等により整備等を進めて行く。

江戸川の優先順位を早急に上げて欲しい。

最大限の努力をしている。

ゲート全開実績を教えていただきたい。

前向きに検討する。

4 月 22 日に江戸川水閘門で稚アユ救出作戦 (第 2 回) のイベントがある。

【議事録作成：日本一のアユを取り戻す会 福田】